

暑い暑いと言っていた今年の夏も去り、秋冷の候となりました。秋風とともに、新型コロナウイルスも「秋風が立つ」ごとく冷めてくれればよいのですが、依然ホットな話題となっています。しかし手探り状態であった1月の発生から3~5月の流行の頃にくらべ、最近の感染者の動向は数的には多いものの、臨床的にも疫学的にもこのウイルスと病気に対する理解が進み、質的に大きく変化してきています。それに伴って、初期の概念のままの警戒感を維持するだけではなく、考え方や対応方法そして体制も変化するべき新たなフェーズに入ってきているのではないかと思います。一方、国内外での小児における感染者数はやはり少なく、そのほとんどは軽症ないし無症状で回復し、国内では幸いに小児の死亡例はありませんが、注意深く見ていく必要があると思います。日本小児科学会では、主に学会会員の協力による「データベースを用いた国内発症小児 Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) 症例の臨床経過に関する検討」に基づいた早期公開情報の案内、小児の新型コロナウイルス感染症の診療に関連した海外論文の概要などを、学会ホームページに掲載しています。

さて、今月号の特集は「小児の貧血」として、新生児・乳幼児・学童・思春期と年齢別の貧血の診かた、貧血の鑑別診断、貧血と栄養、疾病として自己免疫性溶血性貧血・遺伝性球状赤血球症・ヘモグロビン異常症・再生不良貧血の診断と治療についての論文を、各エキスパートの先生方より頂きました。私事ですが、今月号の編集後記担当者（岡部）が本格的臨床研究論文に名前を載せていただいた第一号は「先天性 phosphoglycerate kinase (PGK) 欠乏症の研究」（臨血誌）で、当時指導を頂いていた赤塚順一助教授が研究室で楽しそうに実験を繰り返して確認していた光景を懐かしく思い出しながら、あらためて貧血を見直すことを致しました。

総説「腸内免疫学から考える新しいワクチン学」は、この10月1日より国内で定期接種となったロタワクチンを、別の面から考える良いタイミングとなる論文であると思います。その他のトピックス、症例、外国業績の紹介、いずれも大変興味深い論文が掲載されております。

6月号の編集後記と同じ締めくくりですが、新型コロナばかりが病気ではない、と雰囲気を変えてどうぞ本誌をお楽しみください。

（岡部 信彦）

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC 順）

## 小児科

第61巻 第11号 10月号  
2020年10月1日発行（毎月1回1日発行）  
定価（本体2,700円＋税）

年間購読料金  
定価（本体42,100円＋税）  
〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕  
〔年間予約購読者に限り送料無料〕  
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社  
発行者 福村 直樹  
〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14  
Tel 03(3811)7165 [雑誌部直通]  
Tel 03(3811)7184 [営業部直通]  
Fax 03(3813)0288  
<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>  
振替口座 00130-1-191269  
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005  
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>  
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。